

創刊にあたって・品田理事長

ぐんまアートセンター発
足後一年半を経過し、こ
に機関誌を創刊するはこ
になりました。
いままでは、画廊中心に
活動を展開してまいまし
たが、より多くの方々に
ぐんまアートセンターに
関心を持っていただくた
めに、今後には会員活
動がますます盛んにな
ることを目指して参り
ます。
当会のメンバーは、現
在十五名になりました。作
家の分野でも内容は多
彩であります。画家、
作家、造形作家、写真
家、工芸家、デザイナー
のそれぞれが求められ
ていて、作家活動を続
けているわけですね。又
地域性を生かして活動
している方も少なくない
と思います。今後、この
機関誌を通じて、作家
と観客との交流を促し
たいと思います。



Making Space for Art Activities;
Art Spaces in Gunma from 1970s to 1990s

アートのための場所づくり

一九七〇年代から九〇年代の群馬におけるアートスペース

「アートハウスの10年」展

"A Decade of ART HOUSE"

1998年11月1日(日)～15日(日)

10:00時～18:00時
初日13:00～ 最終日15:00

会場
ノイエス朝日 & ベーバーテック1

記念講演

11月1日 14:00時 パネルトーク1

「地域・芸術・文化活動の重要性とアートハウスの未来」

高橋 元吉、高田 博厚

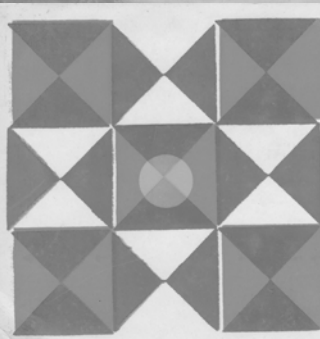
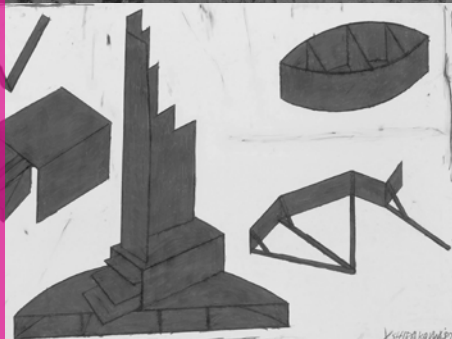
15:00時 ノイエス朝日



'76



煥乎堂 3 階ホール
前橋市大手町一丁目3-4 ☎ 027-3331311 代表



隣屋夢幻の16篇の はな の詩による

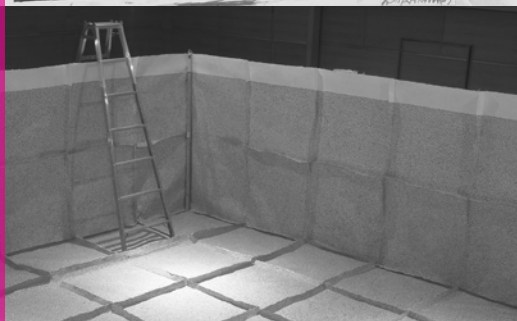
版画展 — 金子英彦 セリグラフィ展

〈セリグラフィ展〉— 金子英彦 セリグラフィ展

6月3日 — 10日・ぐんまアートセンターギャラリー
前橋市大手町2-7-1 最終日
1974年 TEL.027-3331-7132

金子英彦

1924 群馬県生まれ。1949 慶応大学経済学部卒。1964 以後パリ・モナコ、東京、京都、大阪、名古屋、福岡、札幌、仙台、新潟、長野、山梨、静岡、岐阜、愛知、三重、滋賀、奈良、和歌山、徳島、高松、香川、岡山、広島、山口、福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄、海外など。1972 年から群馬県に拠点を移す。1973 年、前橋市に「煥乎堂」を設立。1974 年、前橋市に「煥乎堂」を設立。1974 年、前橋市に「煥乎堂」を設立。



ROGER ACKLING
SUN DRAWING
JUNE 1985
CONCEPT SPACE
301, ISHIHARA, SHIBUKAWA,
GUNMA, 377, JAPAN

2023年

1月21日[土]—4月9日[日]

明治初期に創業した書店、煥乎堂は、前橋の店舗内で古くから美術展などを開催し、1960年代後半に白井晟一設計の新店舗にギャラリー専用スペースが設けられると、年間を通してさらに多彩な展示を行うようになります。そこでは群馬県関係作家を中心に広く国内外の美術が紹介され、特に創業家の高橋元吉と縁の深い高田博厚を中心とした一元会展や県関係作家をセレクトした煥乎堂美術展といったアニュアル展は、その活動の特徴づけるものとなっていました。20世紀後半を通して作家や文化人が分野を超えて集い交流する場となった〈煥乎堂ギャラリー〉のほかにも、群馬県内にはこれまで様々な“アートのための場所”がつけられてきました。1970年代の〈ぐんまアートセンター〉、80年代から現在も活動を続ける〈コンセプトスペース〉、80年代から2000

年頃まで活動した〈アートハウス〉は、すべて作家主体で運営され、地域の作家たちに発表の場を提供するだけでなく、国内外の同時代美術を紹介する役割を果たしてきました。さらに90年代、白川昌生らによる「場所・群馬」の活動拠点になると同時に積極的に海外作家を招聘した〈北関東造形美術館〉は、専門学校の附属施設としての役割を超えた独自の活動を展開しました。この展覧会では、〈煥乎堂ギャラリー〉を中心に1970年代から90年代に群馬県内で活動した主なアートスペースの歴史を振り返り、多様な人々が集い、新たな創造を生み出す場となったそれぞれのスペースの特質や県内アートシーンに果たした役割を検証します。

本展でとりあげるアートスペース

煥乎堂ギャラリー

〔前橋 1954～2005〕

煥乎堂は、慶長年間(1596-1615)から高崎の中紺屋町で呉服や古着を扱っていた高橋家が、明治初期に創業した書店。県庁の前橋移転に伴い、1883年に本拠地を前橋に移す。高橋清七(1884-1942)は、1921(大正10)年に煥乎堂を株式会社にして経営の近代化を推し進め、30(昭和5)年に入社した磯貝憲佑(1906-1979)は、清七の後を継いだ弟の元吉(1893-1965)を支えて戦後の煥乎堂の要となった。1954年9月、白井晟一設計の新店舗が完成し、2階にギャラリーが設けられた。このギャラリーは、やがて60年に増築された3階へ移動。65年秋に入社した岡田芳保が以後ギャラリーの企画・運営を担当。美術だけでなく音楽コンサートや文学者による文芸講座などが開催され、文化サロンとして機能した。93(平成5)年12月、6階建ての現店舗が新築され、ギャラリーはその4階へ移った。2005年、創業者の高橋家が経営から退き、ギャラリーは閉鎖。

ぐんまアートセンター

〔前橋 1974～1980〕

1960年代、群馬NOMOグループの活動拠点となっていたやまだや画廊の閉廊が決まり、メンバーの藤森勝次が中心となって、作家が自由に使用できるスペースの存続のため、1974年3月に発足。県庁前通りの前橋ビル内のやまだや画廊のスペースを金子英彦から引き継いで「ぐんまアートセンターギャラリー」が開設された。参加作家の会費により運営するという当時としては先駆的な試み。理事長・品田静男。事務局長は、藤森(1974-77年)、内堀進、山田英雄が務めた。会員は年1回、ぐんまアートセンターギャラリーで展覧会を開催することができた。『ぐんまアートセンターニュース』を発行。1980年6月解散。

コンセプトスペース

〔渋川 1982～〕

福田篤夫が中心となり、群馬県渋川市内の10.5畳の長屋式アパートを利用してオープン。「住まうこと、制作すること、展示すること、企画すること」の4つを同一地平で行い、身近な空間から現代の美術状況を考えることを目的に、既成の美術にとらわれない視点で国内外の現代美術作家の個展等を企画している。「渋川現代彫刻トリエンナーレ」(1985～93年)など大規模な国際展も組織。90年代には高崎美術学院内のスペースを使った「コンセプトスペースR2」、現在は渋川の「AIS」も運営する。

アートハウス

〔沼田／高崎／前橋 1987～2001〕

吉田富久一らが発起人となり、1987年11月、沼田市の松井写真館新社屋3階にスタジオ兼ギャラリーを開設。展覧会企画と美術教室を並行して行う。90年、高崎市上中居町の吉田宅アトリエに拠点を移し、アートハウス高崎として再スタート。運営会を構成する会員がそれぞれの企画展・座談会を発案・実施する担当制をとる。96年からは朝日印刷工業が前橋に開設した多目的スペース「ノイエス朝日」を会場に、2000年まで活発な活動を展開。2002年の定例会を最後に活動を休止している。

北関東造形美術館

〔前橋 1992～?〕

1992年、北関東造形美術専門学校が前橋市石関町に新キャンパスを開校した際、85年から学校に併設されていた豊田一男蠟画記念館の活動を発展的に引き継ぐ形で校内に開館。経営者・品田静男の妻、安達真枝が館長を務める。89年から同専門学校で教鞭を執った白川昌生による「場所・群馬」(1993年～)の活動拠点となると共に、積極的に海外の現代美術作家を紹介した。99年、白川が同校を離れて以降は学生作品展などを開催していたが、2002年に閉館となる。同校は2000年、品田静男の死去に伴い専修学校群馬芸術学園と改称、2016年に閉校した。

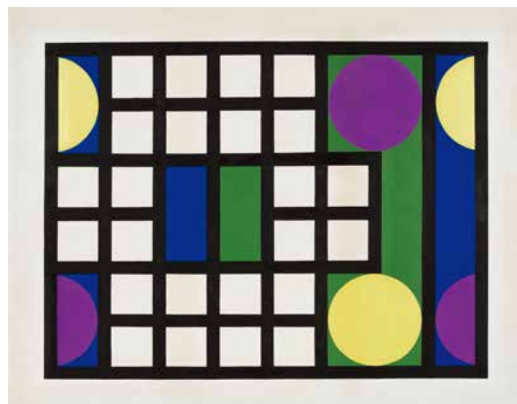
広報用画像 — 出品作品

Hiroatsu Takata
高田博厚



01
高田博厚《美しきエミーⅡ》1963 年
セメント、着色 群馬県立近代美術館蔵

Sekikazu Kawauchi
河内世紀一



02
河内世紀一《無題》1977 年
油彩・カンヴァス 作家蔵

Koji Enokura
榎倉康二



03
榎倉康二《干涉》1990 年
アクリル塗料・カーペット、豚革 個人蔵
[コンセプトスペースでの展示風景]

Fukuichi Yoshida
吉田富久一



04
吉田富久一《Nature's Engineering No.443》1996 年
アクリル・和紙、アルミ脚立 作家蔵
[ノイエス朝日での展示風景]

Yoshio Shirakawa
白川昌生



05
白川昌生《赤一彫刻》1987 年
オイルパステル、鉛筆・紙 群馬県立近代美術館蔵

広報用画像 — 資料

煥平堂ギャラリー



A
「第16回煥平堂美術展」案内状
煥平堂、1976年

ぐんまアートセンター



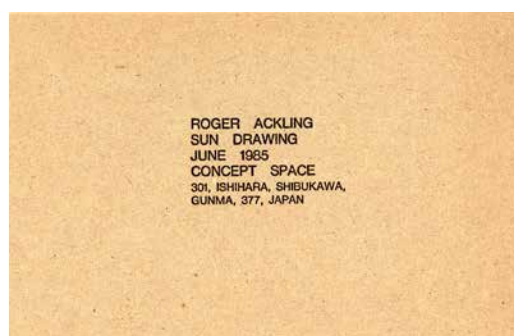
B
「隔屋夢幻の16篇のはなの詩による版画展
—金子英彦セリグラフ展」案内状
ぐんまアートセンター、1974年

ぐんまアートセンター



C
「ぐんまアートセンターニュース」No.1
ぐんまアートセンター、1975年

コンセプトスペース



D
「ロジャー・アックリング展」案内ハガキ
コンセプトスペース、1985年

アートハウス



E
「アートハウスの10年」展チラシ
アートハウス、1998年

北関東造形美術館



F
「第2回場所・群馬」展案内ハガキ
北関東造形美術館、1995年

アートのための場所づくり

開催概要

展覧会名 | アートのための場所づくり 1970 年代から 90 年代の群馬におけるアートスペース
Making Space for Art Activities; Art Spaces in Gunma from 1970s to 1990s

会期 | 2023 年 1 月 21 日 [土] → 4 月 9 日 [日]

会場 | 群馬県立近代美術館 展示室 1、ギャラリー

休館日 | 毎週月曜日

開館時間 | 午前 9 時 30 分～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)

観覧料 | 一般 700 (560) 円、大高生 350 (280) 円
*() 内は 20 名以上の団体割引料金
*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は無料

関連イベント | 担当学芸員による連続講座

1 煥平堂ギャラリー	1 月 29 日 [日]
2 ぐんまアートセンター	2 月 11 日 [土・祝]
3 コンセプトスペース	2 月 26 日 [日]
4 アートハウス	3 月 26 日 [日]
5 北関東造形美術館	4 月 9 日 [日]

14 時～15 時 2 階講堂 定員 100 名 (先着順) [聴講無料・申込不要]

※新型コロナウイルスの感染状況等により開催を中止または内容を変更する場合があります。
最新情報は当館ホームページでご確認いただくか、お問い合わせください。

同時開催 | 群馬 AIR アートプロジェクト 2022 成果発表展 ～アーティストからみた群馬の魅力～
2023 年 2 月 21 日 [火] → 26 日 [日]

お問い合わせ | 群馬県立近代美術館
広報担当 見城 久美子
E-mail kenjyo-kumiko@pref.gunma.lg.jp
370-1293 高崎市綿貫町 992-1
Tel. 027-346-5556 / 5560 Fax. 027-346-4064

